

キクの生育と開花におけるさし穂の低温処理の影響

木村喜久夫・森口遷・山本保・植松照義

キクのさし穂の低温貯蔵と開花の関係について究明し作型を確立するため、2~3の実験を行った。その結果、

1. 貯蔵期間は貯蔵温度で異なり、0~2°Cがさし穂の健全状態を長期間維持する上に適当であった。
2. 採穂時刻は日照量が少ない午前中とか、雨天に採穂するより快晴の日を選び、日中または夕刻に採穂することが貯蔵期間も長くなり、発根率も高くなった。
3. 葉内の澱粉含有量は、朝採穂したものが少なく、午後から夕方にかけて採穂したものは多かった。また澱粉含量の多い穂ほど貯蔵期間が長かった。
4. 低温貯蔵で開花を均一にし、開花期を早め、草丈を長くし、品質をよくする効果があった。
5. 低温処理した穂は定植後、生長点を摘心しても、低温感応効果は変らなかった。